



絵本を用いた障害理解教育の検討

初等教育コース 馬場 美波

(指導教員 眞城 知己)

問題の所在と目的

近年、通常の学校で障害のない子どもたちと共に学ぶ、障害を持った子どもたちが増えてきている。また、通常の学校で障害のない子どもたちが関わるのは、知的障害、自閉症・情緒障害である子どもが多いと考えられる。そのため、知的障害や自閉症等の発達障害に関する障害理解教育が必要であると考へた。

知的障害や発達障害は、一見ただけでは困っていることが分りにくく、また、体験型の障害理解教育は行えない。知的障害や発達障害に関しては、「交流数」は多いものの、障害理解教育は手軽に行うことが出来ない。

他方、読書することで直接体験できないことでも疑似体験することができる。そのため知的障害や発達障害のように直接体験することが難しい障害についても、本を用いた障害理解教育を行うことが効果的であると考へた。また、子どもに対して障害理解教育を行う場合は、文章だけの本を用いるよりも、挿絵があり、文章が簡潔である絵本がより効果的であると考へられる。しかし、知的障害や発達障害に関する内容の絵本は多数存在しており、どのような絵本を選択するか決めるには、実際に子どもたちが絵本などの児童文学作品をどう受け止めるのかを知る必要があると考へた。どのような絵本を選択し、どのようにして障害理解教育へと活用できるかを検討していきたい。

本研究では、知的障害や発達障害に関する内容の絵本を読んだ児童の感想をもとに、どのようにして絵本を小学校での障害理解教育に有効活用できるのかを考察することを目的とした。

方法

- (1) 文献研究を行い、子どもに対して障害理解教育を行う際の留意点を検討した。
- (2) 『さかさまになっちゃうの』と『すずちゃんのおみそ』を、小学5年生の8名に対して読み聞かせ、自由記述の文章で自由な感想を書いてもらうとともに、個別の対面形式で聞き取りを行った。調査で得られた質的データはグループ化し、カテゴリーを生成して分析を行った。

結果

さかさまになっちゃうの

文章による感想では、「アルフィーは頑張っている」「何度もれんしゅうをしていすすごい」という内容が多くみられた。繰り返し字を書く練習をしている場面が強調して描かれていたためだと考へる。また、「困ったり、分からないことがあったりする場合は、人に聞くことが大切であると学んだ」という内容も多くみられた。

対面での聞き取りでは、『あらすじ』、『なぜアルフィーは字をさかさまに書いてしまったのか』、『クラスメイトが字を書けなかったら』について質問した。

『あらすじ』については、多くの児童が良く内容を覚えており、作品冒頭から順を追ってストーリーを話していた。また、「アルフィーは字を書けない」という内容に多くの児童が言及していた。

『なぜアルフィーは字をさかさまに書いてしまったのか』については、「練習不足」と答えた児童が最も多かった。十をさかさまに書いてしまった背景に学習障害という発達障害があることには、絵本を読んだだけでは、児童は気づくことが出来ないと考へる。何度も練習したら字が書けるようになったと描かれているため、努力によって克服できるものであると捉えてしまっているのだと考へる。

『クラスメイトが字を書けなかったら』については、多くの児童が、「教えてあげる」と答えていた。

すずちゃんのおみそ

文章による感想では、すずちゃんが「頑張っている」と表現した児童がいた。障害があるすずちゃんにとっては、他の子どもと同じことをしていても「頑張っている」という印象を受けたのだと考へる。また、すずちゃんの周りの友達や先生に対して「すごい」、「やさしい」と表現した児童が複数いた。

対面による聞き取りでは、『あらすじ』、『おみその説明について』、『クラスメイトに噛みつかれたら』について質問した。

『あらすじ』については、多くの児童が「すずちゃんは障害がある」と言った内容から語り出した。また、多くの児童が絵本の中で描かれているすずちゃんの自閉症による行動特性について取り上げていた。すずちゃんが障害を持っていることや、それによって他者と違ったことをすることが、強く印象に残ったのだと考へる。『さかさまになっちゃうの』のように、頭から順を追って話した児童は少なく、思い出した内容から話した児童が多かった。

『おみその説明について』は、絵本の中で自閉症のおみそがどのように感じているのかを子どもに向けた説明をしている場面についてどう感じたのかを質問した。半数が「わかりやすい」と答え、残り半数は「わかりにくい」と答えた。

『クラスメイトに噛みつかれたら』に関しては、多くの児童が「許す」と答えた。理由として、「障害だから仕方ない」と話す児童が多かった。絵本の中ですずちゃんがいかに大変であるか、また、周りの友達がすずちゃんを許し、仲良くしていると描かれているため、障害をもつ人には優しくしなければならないと感じてしまっただけではないかと考へた。

考察

絵本を用いて障害理解教育を行う際の留意点は3点あると考へる。

① 絵本を用いて字を教えることを明確にしておく
絵本を読ませることは目的ではなく、手段である。絵本によって児童が学ぶことは異なるため、絵本を用いて字を教えることを明確にしたうえで、絵本を選考する必要がある。

② 自由に感想を書かせる。または聞き出す。
児童の感想から、もしも障害について偏った捉え方をしていることが分れば、偏りをなくすような知識を伝える必要がある。また、児童が疑問に思った点や興味を持った点を知ることで、授業をそこから展開していくことができ、より児童が積極的に参加できる障害理解教育の授業をすることができると考へる。授業の展開をあらかじめ用意しておくため、児童が絵本をどのように捉えるかの予想を立てておくことが必要である。

③ 事前事後指導をきちんと行う。
絵本にすべて頼るのではなく、児童に偏った考えを持たせたままにしてしまわないために、事前事後指導が必要である。
通常の学校に在籍する障害のある児童が増え、障害理解教育の必要性が高まっている。また、社会に出れば、障害のある人もない人も共に生きていく。障害に対して偏見を持ったまま大人になってしまわないように、子どもの頃からの障害理解教育が必要である。

絵本を用いた障害理解教育は、子どもたちに、障害について知り、考へる機会として有効であると言える。しかし、ただ絵本を読ませるのではなく、子どもたちの発達段階を考えた目的を設定して、障害理解教育を行うことが必要であると考へた。

分析結果の表の例

表1 文章による感想(さかさまになっちゃうの)

大カテゴリー	件数	小カテゴリー	件数	記述例
本人について	11	頑張っている	6	「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」
		困った	3	「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」
		知持	3	「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」
		特性	2	「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」
周囲について	6	ジャックの言葉	3	「ジャックは一生懸命に頑張っていました。」「ジャックは一生懸命に頑張っていました。」「ジャックは一生懸命に頑張っていました。」
		その他	3	「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」
字びとなったこと	5	人に聞く・頼る	4	「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」
		自分からどうするか	1	「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」
絵本について	3	よかった	2	「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」
		その他	1	「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」「アルフィーは一生懸命に頑張っていました。」

表2 あらすじ(すずちゃんのおみそ)

大カテゴリー	件数	小カテゴリー	件数	発覚例
すずちゃん自身	7	練習がある	3	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		性格	2	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		怒り	2	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
自閉症の行動特性	8	急に笑う・泣く	3	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		動きが速い	3	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		聴きたくて	4	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		話さない	3	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		アイコンタクトしにくい	2	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		その他	2	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
親の働き	3	すずちゃんのおみそと他の違い	3	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
周囲の関わり	6	その他	1	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		押しでくれる	2	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		仲良くしてくれる	2	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		パニックへの対応	1	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		その他	2	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
感情を伝える	4	すずちゃん	4	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
		母親	2	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」
その他	2		2	「すずちゃんは練習をしています。」「すずちゃんは練習をしています。」

表4 なぜアルフィーは字をさかさまに書いてしまったのか(さかさまになっちゃうの)

カテゴリー	件数	発覚例
苦手	2	「字を書くのが苦手だから。」「字を書くのが苦手だから。」
練習不足	4	「字を書くのが苦手だから。」「字を書くのが苦手だから。」「字を書くのが苦手だから。」「字を書くのが苦手だから。」
その他	1	「字を書くのが苦手だから。」「字を書くのが苦手だから。」
分からない	1	「字を書くのが苦手だから。」「字を書くのが苦手だから。」

表4 おみその説明について(すずちゃんのおみそ)

カテゴリー	件数	発覚例
わかりやすい	1	「おみその説明はわかりやすかったです。」「おみその説明はわかりやすかったです。」
わかりにくい	4	「おみその説明はわかりやすかったです。」「おみその説明はわかりやすかったです。」「おみその説明はわかりやすかったです。」「おみその説明はわかりやすかったです。」

主要参考文献

- 徳田克己・水野智美 (2005): 障害理解—心のバリアフリーの理論と実践. 誠信書房.
- 糟谷知香江・門恵子 (2021): 自閉スペクトラム症のある子どもの保護者は絵本『ふしぎな子どもたち』をどう受け止めるか: 障害に理解のある集団づくりのために. 聖路加国際大学紀要, 7巻, pp.37-46.